

「JAPIC国土・未来プロジェクト研究会」

活動経緯

2022年(令和4年)3月

1. 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC) について

沿革

昭和58年4月 社団法人設立

会員

43業種225社の団体・企業・地方自治体・大学・NPO等で構成。年間延べ約1万人が国益・公益的立場で活動企画、政策提言。

会長

進藤 孝生 日本製鉄(株)代表取締役会長

副会長

宮本 洋一 (一社)日本建設業連合会 会長

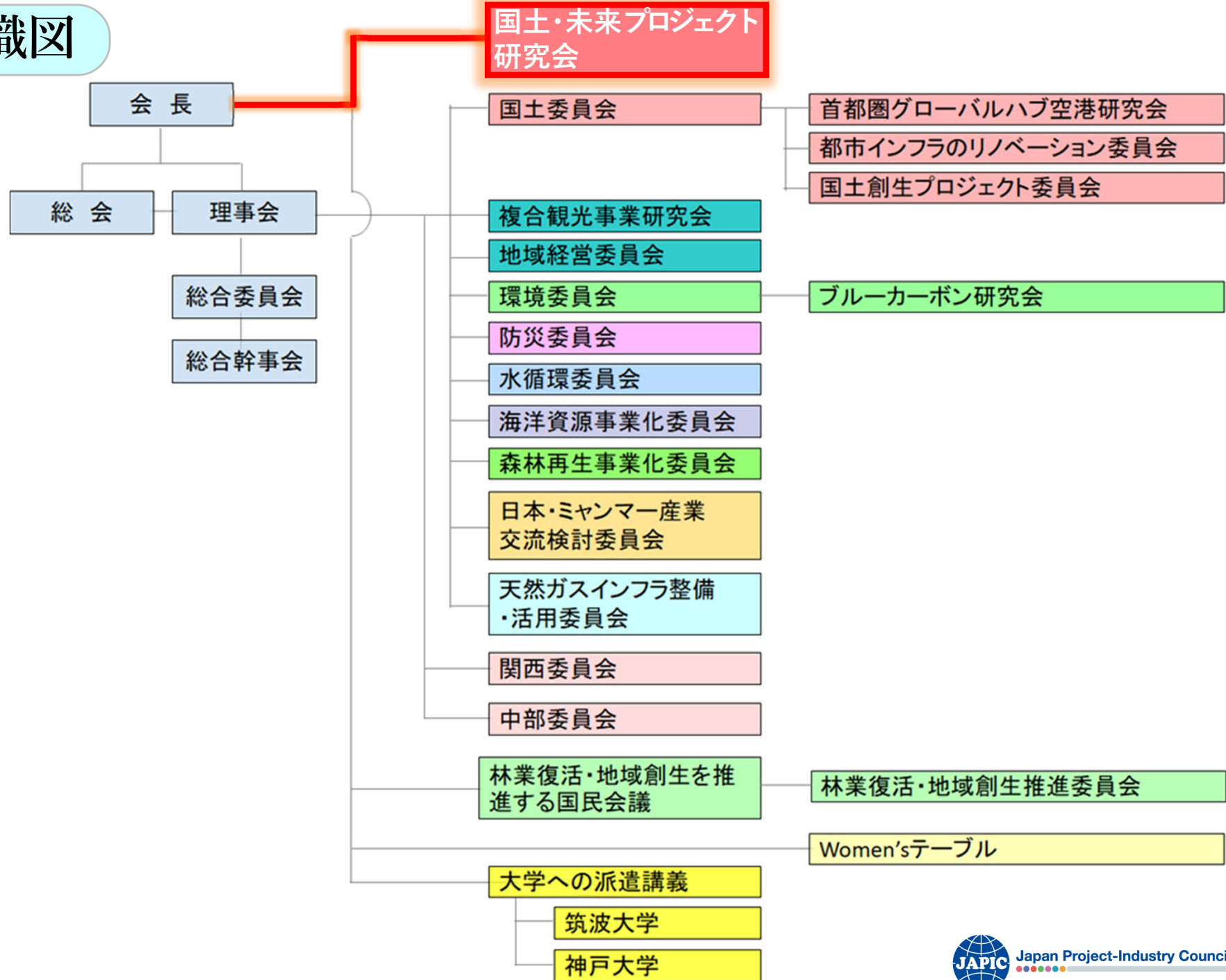
佐藤 康博 (株)みずほフィナンシャルグループ取締役会長

小林 健 三菱商事(株)取締役会長

中村 英夫 東京都市大学名誉総長

1. 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC) について

組織図



2. 国土・未来プロジェクト研究会における活動経緯

□研究会発足の背景－低迷する新たなプロジェクトの提案

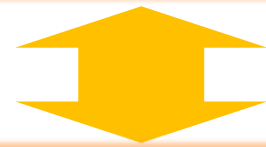
- 現在進められ、完成しつつある骨太のインフラ・プロジェクトの大半は、30年以上前の長期計画による
- 「四全総」(昭62年策定) までは、「長期的な投資見通し」と「新たな骨太のプロジェクトの提案」を先導してきたが、それ以降はバブル崩壊の影響もあり、新しい具体的なプロジェクトの提案は抑制
- 本研究会では、インフラ整備に関する定性的な理念ではなく、出来るだけ具体的なプロジェクトを提案

2. 国土・未来プロジェクト研究会における活動経緯

□研究会発足の背景－インフラに対する国民の関心

2011年3月11日 **東日本大震災**⇒**防災・減災・国土強靱化**の重要性を認識

2012年12月2日 **笹子トンネル天井板落下事故**⇒**維持・修繕**の重要性を認識



「新しいフロンティアを拓き、将来の社会経済の発展基盤を形成するインフラ整備」

「国民生活の豊かさを実感できる環境・景観の改善に資するインフラ整備」

は、インフラストラクチャー(下部構造)であるが故に、その重要性を忘れられがち

⇒ インフラ先進国であり、日本以上に成熟国家である
欧米諸国においても、積極的に取り組まれている。

海外参考事例(1) デンマークの海峡横断プロジェクト

■ 海峡を繋ぎ、国土軸の形成、隣国との連携強化に成功

*デンマーク

- ・人口：579万人（北海道518万人）
- ・面積43,094km²（北海道の約1/2）
- ・主要産業：農業、観光、再生可能エネルギー、運輸



①リトルベルト（1935年全線開通）

- ・延長：3.0km（橋梁）

②グレートベルト・リンク（1998年全線開通）

- ・西ベルト：道路・鉄道併用ガーダー橋（6.6km）
- ・東ベルト：鉄道トンネル（8.0km）
道路橋（6.8km）

③オーレスン・リンク（2000年開通）

- ・延長：15.8km
（沈埋トンネル・埋立部・橋梁）

④フェーマルンベルト・リンク

- ・事業期間：2019年～2028年(予定)
- ・延長：17.6km（沈埋トンネル）

海外参考事例(2) スイスの世界最長トンネルプロジェクト

■ゴットアルド・ベース・トンネル

アルプス山脈を越えて国の南北を高速鉄道で結ぶ大動脈を形成

- ・ 建設時期 : 1999年~2016年
- ・ トンネル長 : 57.1km・・・世界最長 (青函トンネル : 53.8km)

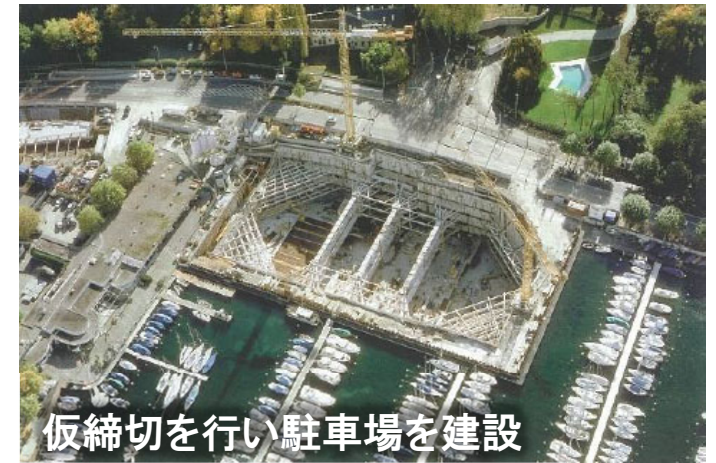
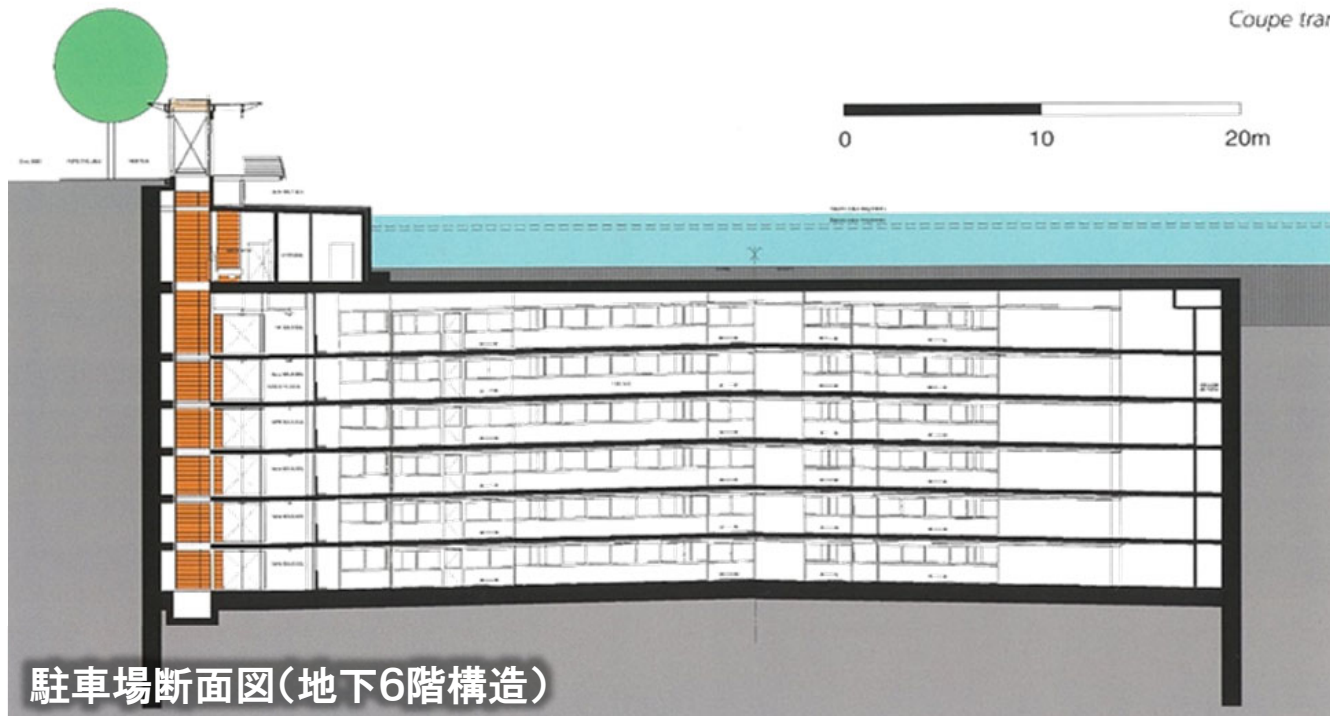


海外参考事例(3) スイスの湖底駐車場整備プロジェクト

■ ジュネーブ湖底駐車場

渋滞緩和のためのP&R駐車場整備の一環として、景観と利便性を両立させるためにレマン湖の湖底に建設。

- 建設時期：2000年～2004年
- 地下6階の駐車場(904台)
- 建設費：約50億円



海外参考事例(4) ドイツの幹線道路地下化・賑わい創出

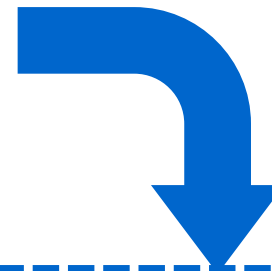
■デュッセルドルフ連邦道路B1地下化プロジェクト

都市を分断していたB1の混雑状況
(1989年)



写真左側：ライン川河岸

写真右側：デュッセルドルフ旧市街



現在のライン川河岸プロムナード



トンネル坑口



B1の地下化により河岸と旧市街が
一体化され、大勢の人々で賑わう

(出典：国土交通省「首都高速の再生に関する有識者会議」提言書)

2. 国土・未来プロジェクト研究会における活動経緯

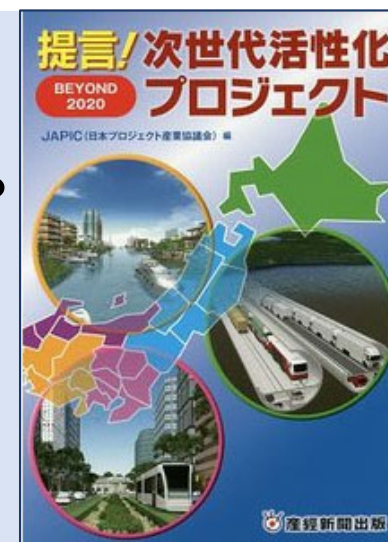
□ 国土・未来プロジェクト研究会とは

組 織

最高顧問	中村 英夫 <JAPIC副会長>
委員長	藤本 貴也 <パシフィックコンサルタンツ(株)特別顧問>
委員・幹事	民・官・有識者により構成 <約50団体>

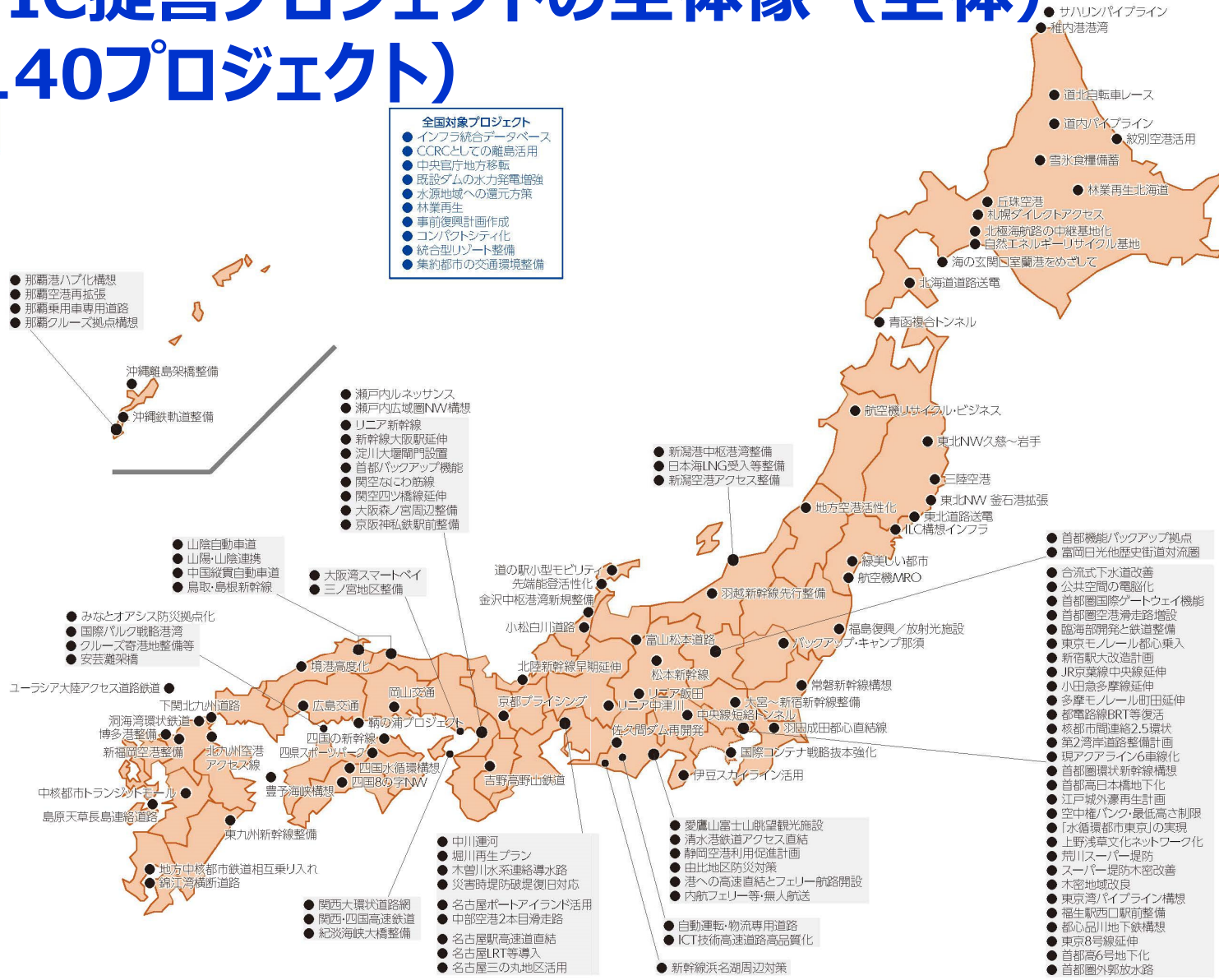
活動概要

- ・2015年8月 研究会設立。
- ・2017年11月「提言！次世代活性化プロジェクト」発行。
- ・国土の活性化に資するハード・ソフト両面にわたる具体的なプロジェクトの提言・推進を行う。
- ・行政等、関係団体へのヒアリングや独自検討を行い、プロジェクトの実現に向けて取り組む。



2. 国土・未来プロジェクト研究会における活動経緯

□ JAPIC提言プロジェクトの全体像（全体） （約140プロジェクト）



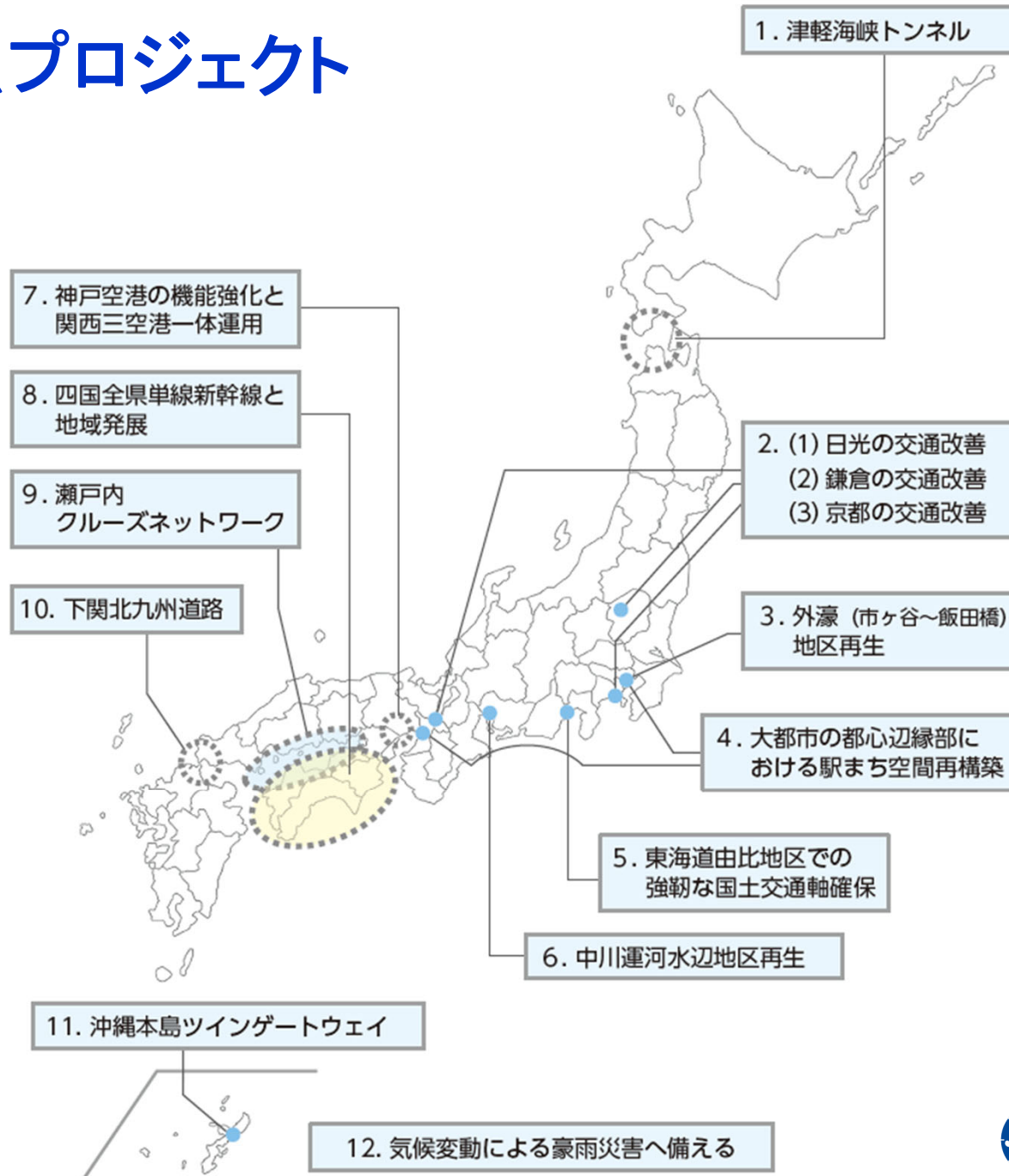
3. 国土造りプロジェクト構想(重点プロジェクト)の提言

□ JAPIC提言プロジェクトのうち重点プロジェクトのフォローアップ

- プロジェクトごとにチームを再編し、以下について検討を行う
 - ・計画段階・設計施工段階
 - ・事業の必要性・整備効果
 - ・事業手法（PFI他）
 - ・プレゼンテーションの方法（パース、アニメ、模型等）
 - ・発信方法（シンポジウム等）等について、各プロジェクトの状況に応じて対外的にアピールできる内容を検討する

3. 国土造りプロジェクト構想(重点プロジェクト)の提言

□12の重点プロジェクト



4. 今後の予定

- ▶ 3/9 国土造りプロジェクト構想 発表会・シンポジウム
開催
- ▶ 4月～ 全国各地において、講演会・シンポジウムを開催
することをはじめ、地元経済界、有識者等関係
者と連携して、各プロジェクトの実現に向けた諸
活動を行う
- ▶ 6月 「提言！次世代活性化プロジェクト」増補改訂
版発行